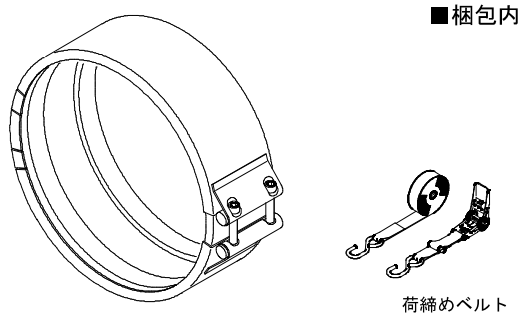
SHO-BOND MATERIAL

ストラブ・クランプ Cタイプ
【700A】
取扱説明書

■梱包内容



取付け作業を行う前に、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえ、『施工手順書』に従って、正しくご使用下さい。
なお、ご不明な点がございましたら当社ホームページまたは下記の営業所にお問い合わせ下さい。

ショーボンドマテリアル株式会社

■**東京事業所** ： 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町7-8
TEL.03-6861-7411(代表) FAX.03-6861-7421

■**大阪事業所** ： 〒536-0022 大阪市城東区永田3-12-15
TEL.06-6965-7235(代表) FAX.06-6965-7236

■**HPアドレス** ： https://www.sb-material.co.jp/

安全上のご注意【必ずお守り下さい】

この取扱説明書では、製品を安全に正しくご使用いただき、人的危害や財産への損害を防止するため、遵守いただきたい事項を記載しております。

■絵記号の意味

注意	注意（危険・警告を含む）を促す事項
禁止	決しておこなってはいけない禁止事項
強制	必ずおこなっていただく強制事項

警告
記載事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

強制 本体は構造上、鋭利な箇所がありますので必ず、作業用手袋等の保護具を着用し作業を行って下さい。

禁止 製品を取り外す際、配管内の圧力が完全にゼロまで下がっていない場合は、絶対にボルトを緩めないで下さい。

強制 流体が本製品の適用範囲内であることを確認して下さい。（流体種類・流体温度：-30℃～100℃）

強制 使用圧力が適用範囲内であることを確認して下さい。

警告
記載事項を無視して、誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性があります。

強制 埋設管に使用する場合は腐食防止のため、ポリエチレンスリーブやペトロラタム系の防食テープ等で必ず防食処置を行って下さい。

禁止 使用者は構成部品の組ばらしを当社の許可無く行わないで下さい。

注意 蒸気配管には使用できませんのでご注意下さい。

注意
記載事項を無視して、誤った取扱いをすると人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

禁止 直射日光の当たる場所やほこりが多い場所、および振動が激しい場所には、保管・放置しないで下さい。

強制 ボルトの締め付けには必ずトルクレンチをご使用いただき当社が規定するトルク値にて締め付けて下さい。（締め付け不足による漏洩やボルトが破断する原因になります。）

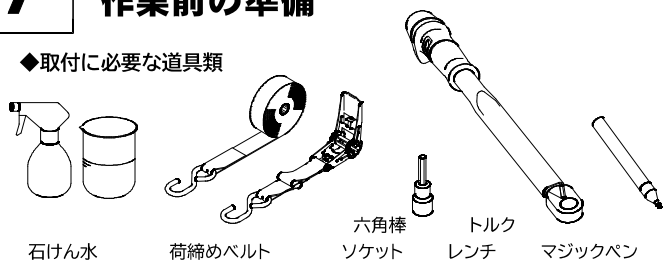
注意 腐食環境で使用する場合は、状況に応じて防食処置や定期的な確認を行って下さい。

注意 漏れ量が多い場合は、規定のトルク値にて締め付けても漏れが止まらない場合があります。その場合は止まるまで増し締めを行って下さい。（ただし、規定のトルク値の2倍までとします。）

施 工 手 順 書

1 作業前の準備

◆取付に必要な道具類

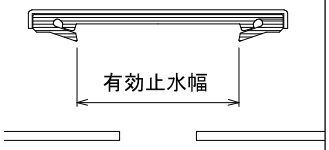


◆管の清掃

・本体を取り付ける箇所は、サビや汚れを除去し、著しい凹みはコーキング材で埋めて下さい。

2 漏洩範囲の確認

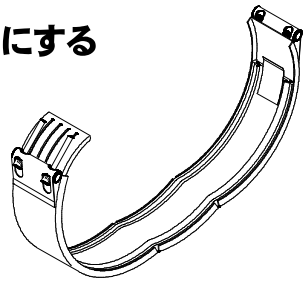
・管の割れ、および大きなピンホールからの漏洩の場合は、止水範囲をご確認下さい。



・有効止水幅は90mmです。

3 本体を二つ割にする

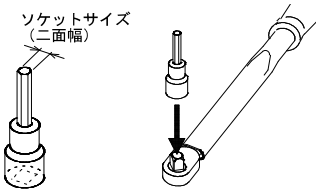
・2本のボルトを緩めて図のように開いて下さい。



4 トルクレンチのセット

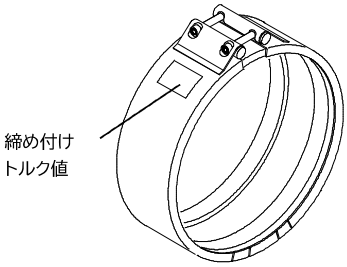
◆六角ソケットの取付け

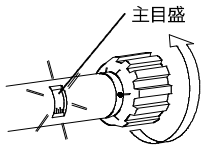
・ソケットサイズは14mmです。



◆トルク値の設定

・カップリング本体のラベルに表示されている『締め付けトルク値』とトルクレンチの主目盛を合わせます。



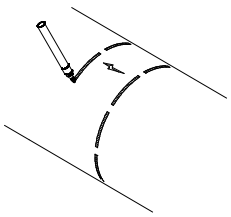


※詳しくはトルクレンチ添付の取扱説明書をご覧下さい。

5 マーキング作業

・補修箇所（割れ、ピンホール）を中心として左右にマーキングします。

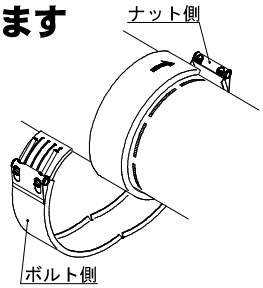
・マーキング幅は、ケーシングの幅と同じ寸法とします。



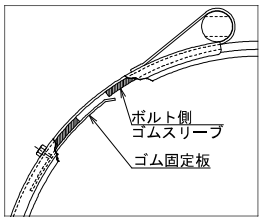
6 補修箇所に取り付けます

・ゴムを滑りやすくするため、パイプの表面に石けん水を塗布します。

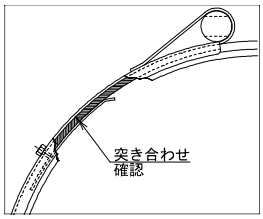
・マーキングに合わせてナット側のケーシングを配置し、ボルト側のゴムスリーブをゴム固定板に沿わせて、ゴムの先端同士が突き合わさるまで、差し込んで下さい。



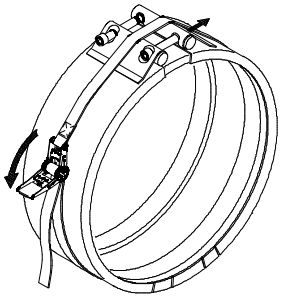
⚠ ゴムを巻き付ける際は、必ず、ゴム固定板とケーシングの間にゴムスリーブが差し込まれており、先端同士が突き合わさっていることを確認して下さい。



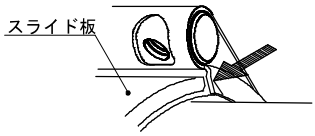
・本製品はヒンジ構造ではないため、ケーシングの開閉がしづらくなっておりますので、『荷締めベルト』をご利用下さい。また、詳しい使用方法は『荷締めベルト』の取扱説明書をご参照下さい。



・準備した荷締めベルトを商品本体に巻き付け、ハンドルを動かし、締込みます。

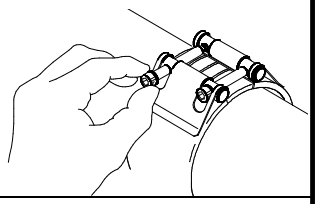


⚠ スライド板がケーシングの端にひっかかっていないか、両サイドをよく確認して下さい。



・ボルトをナット穴を通し、ネジ2～3山分回してケーシングが開かないように仮止めしておきます。

・荷締めベルトのロックを解除し、ベルトを取り外して下さい。



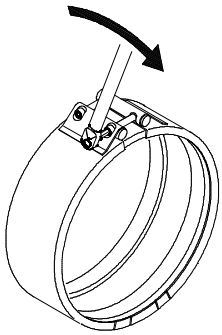
7 ボルトの締付け

・目安としては、片側のボルトを3回転程度締め付けたら、もう一方のボルトに移り、同様に締込みます。この作業を繰り返します。

⚠ ボルトが片締めにならないように充分にご注意下さい。

◆締付け作業完了

・設定したトルク値になると、トルクレンチが『カチン！』と合図します。もう片方も合図があるまで締込みます。この作業を5～6回繰り返し行い、左右のボルトが均等に所定のトルク値になるまで締込みます。



⚠ 漏洩が止まらない場合は、規定のトルク値の2倍までを限度に増し締めを行って下さい。